

## 1-(7) 厚生統計に用いる主な比率及び用語の解説

### [比率]

$$(1) \text{出生率(人口千対)} = \frac{\text{年間出生数}}{10月1日現在の日本人人口} \times 1000$$

$$(2) \text{死亡率(人口千対)} = \frac{\text{年間死亡数}}{10月1日現在の日本人人口} \times 1000$$

$$(3) \text{死産率(出産千対)} = \frac{\text{年間死産数}}{\text{年間出産数(出生数+死産数)}} \times 1000$$

(注) 出産数とは出生数と死産数の合計をいう。

$$(4) \text{周産期死亡率} = \frac{\text{年間周産期死亡数}}{\text{年間出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)}} \times 1000$$

(出産千対)

(注) 出産数とは出生数と妊娠満22週以後の死産数合計をいう。

$$(5) \text{婚姻率(人口千対)} = \frac{\text{年間婚姻届出件数}}{10月1日現在の日本人人口} \times 1000$$

$$(6) \text{離婚率(人口千対)} = \frac{\text{年間離婚届出件数}}{10月1日現在の日本人人口} \times 1000$$

$$(7) \text{合計特殊出生率} = \left[ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女子人口}} \right] 15\sim49歳までの合計$$

### [用語の説明]

- Ⓐ 人口動態 出生・死亡・婚姻・離婚・死産の5種類の人口動態を統計法に基づき統計をとったもの。
- Ⓑ 自然増加 出生数から死亡数を減じたもの。
- Ⓒ 乳児死亡 生後1年未満の死亡
- Ⓓ 新生児死亡 生後4週未満の死亡
- Ⓔ 早期新生児死亡 生後1週間未満の死亡
- Ⓕ 死産 妊娠満12週以後の死児の出産
- Ⓖ 周産期死亡 妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの。
- Ⓗ 合計特殊出生率 その年次の15歳～49歳の女子の年齢別出生率を合計したもので、一人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ど�数に相当する。